

部局名	安全環境部		所属名	清掃センター		所属長名	笠川 博明		電 話	483-4521	
-----	-------	--	-----	--------	--	------	-------	--	-----	----------	--

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード	3240		事務事業名称	焼却炉施設管理事業						短縮コード	経常	3240	臨時	3241		
予算区分	会計	01	一般会計		款	04	衛生費		項	02	清掃費		目	02	塵芥処理費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他					根拠法令等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律,								
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）																
昭和34年に焼却炉施設を設置し、一般廃棄物の処理を開始した。 その後、施設の老朽化等により、施設の更新、平成14年度のダイオキシン類恒久対策整備工事等を行い、現在3炉体制で可燃ごみの焼却処理を実施している。																
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測 環境に係る規制の強化に伴い、施設の高度化が今後も進むものと見込まれるが、ごみの再資源化により焼却全体の削減を図る取り組みも社会的に要求されている。						総合計画の施策体系	5本の柱（章）	03	安全・環境共生都市をめざして							
							大項目（節）	03	環境・衛生							
							中 項 目	02	ごみ処理							
							小項目（施策）	02	環境に配慮した適正なごみ処理の推進							
							細 項 目	02	焼却施設等の整備							
実施計画の計画事業																
計画事業の位置付けの有無				☐	計 画 事 業 期 間		～			計 画 事 業 費		千円				

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	焼却炉施設 可燃ごみ							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成19年度に実際に行ったこと： 市民及び事業者から搬入されるごみの監視・常時ごみピットの監視を行い、投入されるごみの状況を把握する。また、清掃センターに到着した段階でごみの検査を実施する。 焼却炉施設の維持管理を行う。							
	※平成20年度に計画していること： 市民及び事業者から搬入されるごみの監視 ・常時ごみピットの監視を行い、投入されるごみの状況を把握する。また、清掃センターに到着した段階でごみの検査を実施する。 焼却炉施設の維持管理を行う。							
意図 （何を狙っているのか）	可燃ごみに含まれる不燃ごみの排除。 焼却炉施設の適正な維持管理。							
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	入力対象外							
区 分				単位	18年度	19年度		20年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	可燃ごみの搬入量	t	52,234	57,800	52,916	57,800	
	指標2	焼却炉施設	施設数	3	3	3	3	
	指標3							
活動指標	指標1	ごみ搬入時一斉検査回数	回	1	2	1	2	
	指標2	焼却施設の不燃ごみによる故障・不具合発生件数	件	359	0	177	0	
	指標3	不燃ごみによる故障に係る修繕料	円	5,606,000	0	6,981,450	0	
成果指標	指標1	焼却炉（1号炉）の稼働日数	日	255	280	306	280	
	指標2	焼却炉（2号炉）の稼働日数	日	300	280	308	280	
	指標3	焼却炉（3号炉）の稼働日数	日	316	280	308	280	
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	3240	事務事業名称	焼却炉施設管理事業				所属名	清掃センター
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			今後の方向性としては、業務の内容や範囲に応じ、委託化の推進を図っていく。焼却施設の計画的な点検及び補修整備体制の確立を図っていく。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☒ その他							
	☐ 廃止							
☐ 休止								
☐ 現状のまま継続								
⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			市職員から委託職員への切り替えにより、人件費の低減が可能となる。施設の運営管理面に関しては、突発的な故障に起因する炉の停止が回避できる。突発故障に際しては、部品調達等による長期停止が及ぼすごみの溢れ、外部処理経費など、費用面及び衛生面においてのリスクには膨大なものがある。		
			削 減	不 変	増 加			
	成 果	向 上	☐	☐	☐			
		不 変	☒	☐	☐			
		低 下	☐	☐	☐			

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
特に無し									

所属長コメント	安全で適正なごみ処理業務の充実を図るためには、本施策の推進が不可欠であり、長期的に見て、費用面での削減効果には大いに寄与するものとする。								
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり、計画的に委託を実施すべき。					
	☒ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止									
☐ 休止									
☐ 現状のまま継続									